

地区名 荻川地区

<p>今年度の取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉懇談会（8/2、1/19） ・川口子どもの居場所立ち上げ打合せ（4/16、5/21）、ワークショップ等開催（川口町内会、PTA、有志、コミ協、老人クラブ）、7/14～立ち上げ、荻川子ども食堂との連携 名称：ほうかご広場 ・地区社協今年度打合せ（4/22、8/31、9/30、10/6、11/15、12/14） ・地区社協、藤の木原福祉会移動支援に関する情報交換会（6/13、10/28） ・おせち料理配食（見守り）打合せ（6/21）地区社協、民協 ・荻川地域福祉推進連絡会議「地区別計画の推進」（6/24、11/25） ・荻川子ども食堂、出張川口：ほうかご広場（7/27、12/17）合計 100 食 ・おぎかわあったかネット（見守り活動）16 自治会、町内会 ・地域の茶の間「やすらぎの間」運営（週1開催）
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・おぎかわあったかネット：取り組み町内会が増加した一方で、コロナ禍で停滞している町内もあり、自治会・町内会との更なる連携が必要である。 ・荻川やすらぎの間：利用者の高齢化に伴い参加者が減っている。新しい人を増やしたい。コロナが壁となり、藤の木原福祉会による送迎の実現に至っていない。 ・荻川子ども食堂：定着できるよう PR を広げたい。月1回開催したいが資金面が課題である。 ・子ども達も地域の一員として地域を考える場が必要。 ・民生委員の見守り活動のなかで、対応に難しさを感じている。認知症、身寄りの無い人など状況が深刻になってきている。
<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・おぎかわあったかネットの対象者が多い町内では、つながりが広がっている。対象者の反応から、重要な取り組みだと実感できた。 ・荻川やすらぎの間の送迎や一時避難所について、藤の木原福祉会と地域連携を図ることができた。 ・「荻川地域福祉推進連絡会議」を開催し、地域福祉活動計画について共通認識が持てた。 ・川口ほうかご広場が立ち上がり、結小区にも子どもの居場所ができた。全児童にチラシ配布し、参加者が増えた。また、荻川子ども食堂と連携して川口でも子ども食堂を開催することができた。
<p>活動の様子</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; text-align: center;"> <div data-bbox="239 1332 534 1624"> <p>移動支援打合せ</p> <p>子どもの居場所 立ち上げ打合せ</p> </div> <div data-bbox="542 1332 837 1624"> <p>荻川地域福祉 推進連絡会</p> </div> <div data-bbox="845 1332 1141 1624"> <p>あったかネット 車場見守り</p> </div> </div>
<p>次年度へ向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・おぎかわあったかネット拡充の検討（自治会・町内会、民生委員、老人クラブ等と連携） ・荻川やすらぎの間と藤の木原福祉会が連携した移動支援や利用者増についての検討 ・子ども食堂と子どもの居場所の連携を継続 ・「荻川支え合いフォーラム」を開催し、中学生と共に地域福祉を考える場にしたい。 ・緊急情報キットの配布、情報内容の更新を継続 ・防災「我が家の避難所」の継続

[参加者] 荻川コミ協：加納副会長、窪田副会長、本間会計、荻川地区社協：関代表、星副代表、関道子副代表、石井さん、曾我さん、五十嵐さん、荻川地区協議会：田中副会長(あおば通町内会会長)、伊藤さん(荻島自治会会長)、木村さん(車場町内会連合会会長)、荻川民協：中野会長、田辺副会長、支え合いのしくみづくり会議：和田構成員(車場寿会会長)、区老連荻川協議会：久保田会長(荻島荻友会会長) 秋葉区社協：加藤、藤田